

市民参加実施記録

案 件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月14日（木）18時30分～20時15分 ・有珠地区コミュニティセンター白鳥館 多目的ホール
所管部課名	企画財政部企画課
<p>【概要】</p> <p><出席者></p> <p>市：企画財政部長、総務部長、経済環境部長、企画課長、財政課長、事務局（企画調整係）</p> <p>住民：8名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 企画財政部長挨拶 3. 説明 資料に沿って事務局から説明 4. 意見交換 <p>【住民】</p> <p>人口の表の中で生産年齢人口が15歳から64歳とあるが、実際には70歳まで働く人も多いのではないか。また、下限も15歳となっているが18歳まではほとんどが高校生なので、生産年齢人口の幅の上下を引き上げたほうが良いのではないかと考えている。</p> <p>それから、人口増の施策は伊達市ではどのように考えているのか。また、就業人口についても、市として企業誘致の補助などどのようなことをしているのか。</p> <p>【事務局】</p> <p>人口推計の年齢の分け方については、ご指摘のとおり中学校を出てすぐ働く方はほとんどおらず、また定年の年齢がどんどん引き上げられて、70歳まで働く方も非常に多くなっている。</p> <p>今回このように3層に人口構成を分けたのは、過去からの統計との比較しやすくするためであり、統計上の考えからこのような形にしている。</p> <p>現実には、最近の市税の状況で見ても、伊達も最近は人口がどんどん減ってきているが、逆に市民税を納める方の人数が実は増えてきている。これは生産年齢人口は減ってきているものの、女性の就労者が増えてきていることや、60歳を過ぎても働き続けている方が増えてきている事が現れているのではないかと考えている。</p> <p>移住政策に関しては、伊達市は全国に先駆けて取り組みを進めてきている。その効果として最近の統計を見ると、亡くなる方は450人から500人くらいに対し、生まれる子供が最近200人を切ってきているので、自然増減で見ると毎年250人から300人くらい減っていることになる。一方で、社会増減の転入と転出を比較したとき、ここ3、4年は転出のほうが上回っているが、その前は転入と転出がほぼ同じくらいの状況となっている。</p> <p>最近全国的に移住の施策を行っていることもあり、なかなか転入の増加につながらないという状況にあるが、この部分については登別から豊浦までの6つの市町で連携して移住の取組をはじめたいので、さらに力を入れて移住政策を進めていきたい。</p>	

企業誘致の関係について、伊達市には地域振興促進条例という企業が来たときに色々な形で補助をする規定があり、例えば土地を取得した場合、その費用の何割かを補助するものや、固定資産税相当額を3年間補助するもの、また、新規雇用に対して1人当たりいくらという形での補助を出すことができる。しかし、ご存じのとおりなかなか企業も新しく地方に施設を建てるということができないというのが実態である。

【住民】

状況は良くわかったが、起業者がどのように補助や助成を受けられるのかが分かりづらく、企業が本当に入ってきたと思えるようなまちづくりに取り組んでいるのかが見えない。

十勝のほうでは、企業が身障者の方を中心に雇用して農場の生産から販売までをするような取組も行っているが、そういったちょっとした取組というのはできないのか。

移住政策と言ってもただ定年になった人が住みやすくするというだけでなく、ある程度の働き口がなければ、なかなか来てもらえないのが実態だと思う。現到有珠地区でも金融機関もスーパーも無くなり、だんだん人が減ってくるのが目に見えている。さらに中学校はすでに無くなったが、小学校も将来的に無くなるのではという話が聞こえてきており、そういった状態の中では誰も住みたく無くなってしまわないか。それを乗り越えていくような何かはないのだろうか。

何もしなければさらに財源は減っていくということで、このまちに住んでいる住民としてはすごくさみしい。また、医療の関係で私も病院通いしているが、老後に車の運転もできなくなったらバスもないし将来暗いなどということばかり考えている。そのあたりを何とかしてほしい。

【事務局】

交通の部分にも課題があるということであったが、本日来られた方は現時点ではおそらく車を運転されていると思うので今の段階では不便はないのかと思うが、先ほど資料で説明した通り、75歳以上の人口がどんどん増えていくという中で、免許証もいつかの段階で返納することになっていくことになる。

現在も「愛のりタクシー」や路線バスはあるが、さらにこんな交通があれば有珠地区や黄金地区でも不便さが軽減されて住みやすい地域になるのではないかというような考えがあればお聞かせいただきたい。

【住民】

財政の面では厳しいかもしれないが、自治体で巡回バスのようなものを出しているところもある。伊達市に今あるのは農協が買い物客のために出しているバスぐらいで、月に一度15日に決まっていた時間も決まっている。そこまで大きなバスでなくてもマイクロバスのようなものでこまめに走らせてくれば、車がなくても不便に感じないのではないか。

私たちがあと5、6年もすれば80歳を過ぎるので、そろそろ免許を返納しなければいけないと考えるが、病院通いもしているので不安もある。ぜひ、そういったことを考えてほしい。

【住民】

人口の減少だとか財政が厳しくなると聞くと夢も希望もないなと感じてしまう。その中で将来どうするかと言われても、意見も出せないというか、出しても無駄だなというような気持ちにしかない。しかし、少なくとも周りの市町村と比べてみれば、まだ伊達市の場合は人口も3万を超える人口を持っている。

私はここ十数年豊浦町のお世話になっているが、伊達市よりもずっと少ない人口の豊浦町だが、まちの中でいろんな人と接触してみると、明るさや勢いがあるような気がする。

有珠は豊浦町の中心部と変わらないくらいの人口があるのに、こんなに冷え切った状態なのはなぜなのか考えたら、やはり若い人たちがここで何かやりたいとか、あえてここに来てみたいという気持ちにさせなくなってしまっている。その原因は何かと私なりに考えたが、まずは街中が汚いということだと思う。特に海岸線や漁港の周辺がひどくて、さらに細かく言えばキャンプ場だとか自然公園などの公衆トイレは特にひどい状況である。私もあちこち見てきたが、アルトリ岬のキャンプ場は多分世界でも有数の設備の悪さと汚さだと思う。これは伊達市という看板を背負っているのにあまりにも恥ずかしい。はっきり言えば、年間数十人しか来ない上に市にもやる気がないのであれば、いっその事やめてほしいくらいだ。

そのような基本的な部分が欠けているから、地元の人でもここで何とか商売をやっつけようという気持ちにならなくなってしまう。

これは1年で何とかなるようなことではないので、こつこつと積み重ねていかなければいけない。総合計画の中ではまちのクリーン作戦のようなものも取り入れてもらえればと思う。

【住民】

このホールはマイクを使うと聞こえづらいので私は必要ない。このような施設を立派な施設を建てていただいたが、音響の部分を直していただきたい。

私も80歳を過ぎて病気のことなども考えるといつどうなるかわからないわけだが、日赤は総合病院であるにもかかわらず、診てもらいに行っても門前払いされるような状態である。また、予約制ですぐに診てもらえることもできないなど総合病院としての役目をはたしていない。伊達市からは補助金として2億円も支出しているので、現状をどのように考えているのか。

個人で日赤に対して意見書を出しても回答ひとつない状況であり、役所でなければできないこともあるのではないかと。市民としては目に見える改善をしてほしい。

それともう一つ、僻みではないが有珠と黄金の両極は廃れていっているのにインター周辺はすごく栄えてきている。小学校の生徒数も同じような状況だが、これは個人でどうこうできるものではなく、行政として考えてもらわなければならない。中央に集中するばかりではなく、有珠・黄金の人口増も重要ではないか。

有珠は人口も減りお店も無くなってしまった。一番近いお店はまなびの里のコンビニしかないの、冬場になると高齢者は交通事故の危険性も増えてくる。他の地域では市町が調整をして商店をつくっているところもあるので、そのようなことをしてもらえれば農協のバスで買い物に行くようなこともしなくてよくなるのではないかと。

【住民】

私は60歳まで働き、定年後は地域のためにはボランティアをしている。昨年大きな台風があり、その時の海岸線のゴミ拾いから始めたが、拾ったごみの多さにびっくりした。去年の9月から今年の3月まで465袋、今年の4月から現在12月まで352袋がアルトリ周辺の恋人海岸と岬の前後の地域だけで集まった。これは袋に入ったごみだけで、私が一番問題だと思っているのは、浮き球だとかロープだとか網のような水産関係の産業廃棄物ゴミがものすごく大量にうちあげられていることである。よく台風が来て水産関係の施設に被害が出たと新聞にも載っているが、その時に出たごみがどこに辿り着くかと考えたら、突き出した岬の付け根あたりに集まることは誰でもわかると思う。しかし、そのゴミに対して水産業者は誰一人として拾いには来ないのでそのままになっている。だんだんボランティアの輪も広がってきたので、浮き球やロープなどは集めて置いているが、市に相談しても予算がないのでなかなか回収してもらえない。せめて漁協のある市町村は年に数回でも回収するような仕組みがあってもいいのではないかと。

若い人にも魅力のあるまちづくりを考えるのであれば、こういう場所を守っていく必要があるのではないかと。

このごみの問題もそうだが、海岸にあるトイレなどここ4、50年何一つ変わっていない。キャンプ場にあった炊事場の屋根も2年前に撤去されてしまい、キャンプに来た人達からは「急な雨風が吹いても隠れる場所も無くなってしまった。こんなキャンプ場あるか」と苦情を言われた。他のキャンプ場も見てきたが、伊達市より小さいところでももっと手入れしている。

住みやすいまちづくりを考えるのであれば、有珠地区に関してはきれいな海岸だとか文化を前面に出していけばよいのではないかと。

もう一つ、恋人海岸に沿っている道路についてだが、台風が来て道路の上まで波がきて、現在はがたがたで路肩も削られてしまっている状態である。

自然のままを活かすというのであればいいが、有珠山噴火の避難道路になるかもしれないと考えるともう少し整備の在り方を考えてもいいのではないかと。

【住民】

前の方たちも話していたが、この地域は自然がすごく良かったのにいつからか何かが狂ってしまった。住民と行政がタイアップして考えていかなければ、どんどん置いて行かれてしまう。

小学校の件についても、子供がどんどん少なくなって1年生が一人という年もあったが、いつまで学校を残してもらえるのかすごく心配。どのような基準で判断されるのか。

【事務局】

先ほどのゴミの問題ですが、浮き球やロープ、網など水産関係から出ていることは明らかではあるが、所有者が特定できないため、現実的に所有者の特定はできない。また、先ほど予算の話もあったが、これらは産業廃棄物という扱いになるので簡単に処理もできないのが実情である。

今日は担当部長がいないので正確な部分は説明できないが、小学校の統廃合については一定の基準はあるが、地域への説明や意見を伺いながら提案をしていくことになると思うので、一方的に廃校ということにはならない。

【住民】

有珠の中学校がなくなるときの住民説明会で自分は反対の意見をだしたが、中には逆に良かったという意見もあり、最終的には廃校にあった。その際、小学校について確認したら、廃校にはしないとされた。これは約束だと思っている。もしこれが破られれば市役所や教育委員会も信用できなくなる。信用が無くなればこのような話し合いの場には誰も来なくなる。

また、有珠の中学校の建物も利用されずに放置されており、これについても約束が反故にされている。

【事務局】

そういう約束があったのかわからないが、学校の統廃合の問題については地域でも意見が分かるところである。当然そういった意見を色々と協議して考えていかなければならない。

日赤の問題について、総合病院とは名ばかりだとの意見もあるが、地域に住む方のためにも医療施設として必要であるとの考えが市のスタンスであり、それに基づき補助金を出している。しかし、実際に受診される方が不快な思いをしているというのであれば、それは正しいことではないので市から改善するよう伝えていく。医師の確保については難しい問題で、例えば整形の中でも様々な専門分野があるので整形の医師がいれば何でも診られるというわけではない。日赤本社でも医師確保に向けて動いてはいるようだが地方への医師の確保は大変難しい。

コミセンの設備については、運営協議会とも協議して検討していく。

【住民】

高齢になれば、病気が原因で大きい病院がある都会に出てしまうこともあり、人口減少にも影響があるのではないか。

【事務局】

そういったこともあるので、不満な点はあるかとは思いますが総合病院をなくすことはできないと考えている。

【住民】

道の駅で伊達野菜が売られていて、全道的にも全国的にも有名になってきており、街に活気が出てきたように感じる。先日テレビ番組で伊達市の歴史について放送されていたが、周りからも注目されてきているのではないか。

有珠から見ると町の中心部はきれいになっていて、すごく栄えてきているようにも感じるので、そこで出た利益を使って有珠などにも投資をしてもらいたい。

豊浦、洞爺湖、伊達で観光・文化面で協力体制をつくると新聞で見たが、観光のコース作りにぜひ有珠も入れてもらいたい。近くにニセコなど外国人観光客が集まる場所もあるので、そういった人達を引き込んでいけるような取り組みを今後10年間の中で頑張ってもらいたい。

【住民】

先ほどのテレビは私も見ていたが、今の伊達があるのも開拓者が頑張ってきたからであり、誇りを持たなければいけない。

北の湘南とも呼ばれてここもかつては活気があったが、有珠はどんどん元気がなくなり、来年から磯まつりも無くなってしまう。この原因として地域の後押しがない事と市役所もやる気がない事があるのではないか。

【住民】

有珠は洞爺有珠ジオパークの中心的な部分だが、この有珠の地形は7, 8千年前の山体崩壊によってできた流れ山という極めて特殊な地形である。ほかの同様な地形を持つ地域では、きちんとした資料館や散策コースが整備され観光としても売りにしている。せっかくすぐ近くの洞爺湖に大勢の観光客が来ているのにここが全く生かせていないので、位置づけをしっかりとし解説案内板の設置やガイドなど行政としても取り組んでほしい。

【住民】

ジオパークのエリアでも採石が行われていて、ダンプカーの往来も多く危険である。そもそも国立公園に指定されているエリアなのだから、条例などで規制すべきではないのか。

【事務局】

採石の関係は振興局から市に連絡があり、市としても搬出時間や経路などについて事業者と協議している。しかし、守られていないところもあるので、そういった場合は指導を行っている。

【住民】

ふるさと納税の関係ですが、伊達市はあまり力を入れていなかったと思うが、何か事情があったのか。また、このお金は説明のあった歳入歳出の中のどこに入るのか。

【事務局】

ふるさと納税については平成20年度から国が制度化し実施されているが、伊達市では平成18年度から「心の伊達市民」というふるさと納税が参考にしたともいわれる独自の取り組みを行ってきた。

ふるさと納税は全国的に大変なブームになっているが、そもそもの目的は出身地や関係するまちを応援する気持ちを持って寄付することであり、これは「心の伊達市民」と全く同じ考えであるということや、返礼品目当てになって自治体間の競争が激しくなっていることに対して、それは制度としておかしいのではないかとの考えから伊達市は返礼品を行ってこなかった。しかし、ここ数年、伊達市民の中でもふるさと納税を利用する方が出てきて、市税への影響が大きくなってきたことから、しっかりと収入を確保しなければならぬとの考えから今年7月から返礼品を始めることとした。

まだ始めて間もないことから具体的な成果は示せないが、財政見通しの資料中の歳入で言えばその他の部分に入ることになる。返礼品を送るためにも費用は掛かるので、その部分は歳出のその他に入ることになる。

【住民】

前回の有珠山噴火から16年くらい経つが、北電から恋人海岸の方に抜ける避難道路を整備するという話があったと思うがそれはどうなったのか。

【事務局】

計画の方は残っており北海道に要請しているが、なかなか実現できていない状況である

【住民】

災害はいつ起こるかわからないので、後になって後悔しないようにしてもらいたい。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

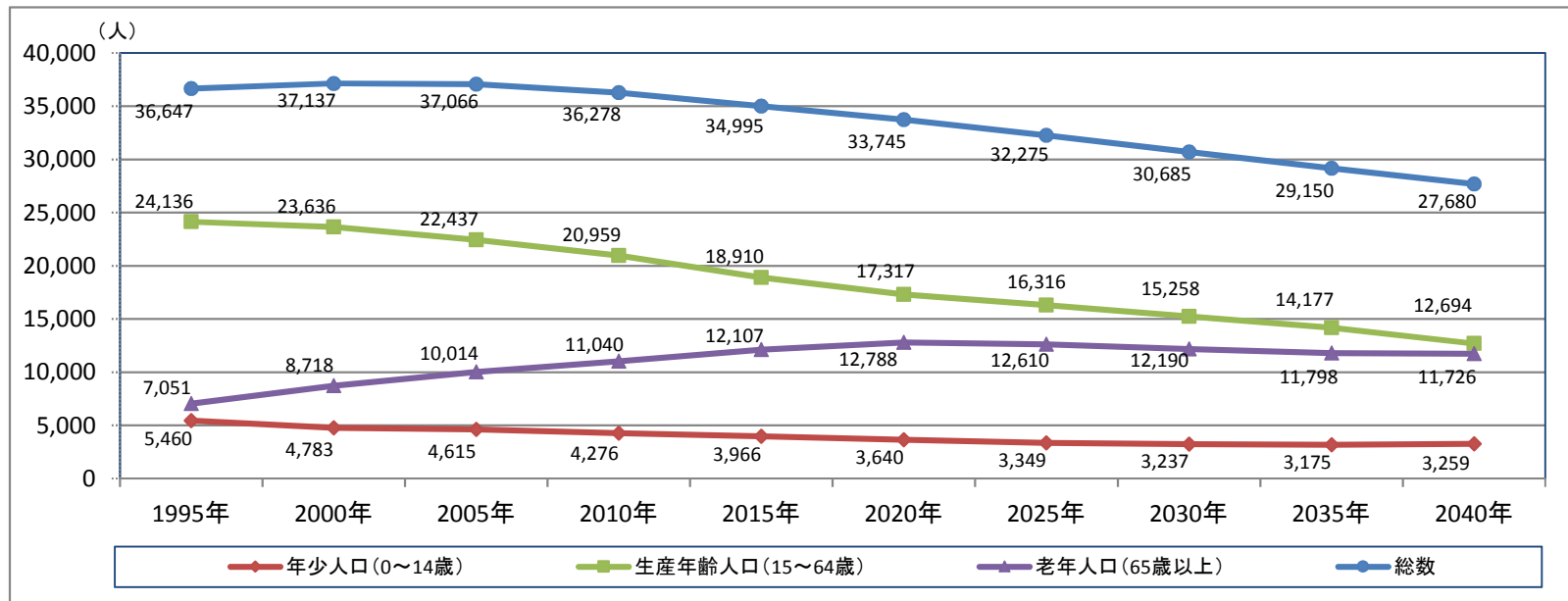
「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

■人口の将来展望

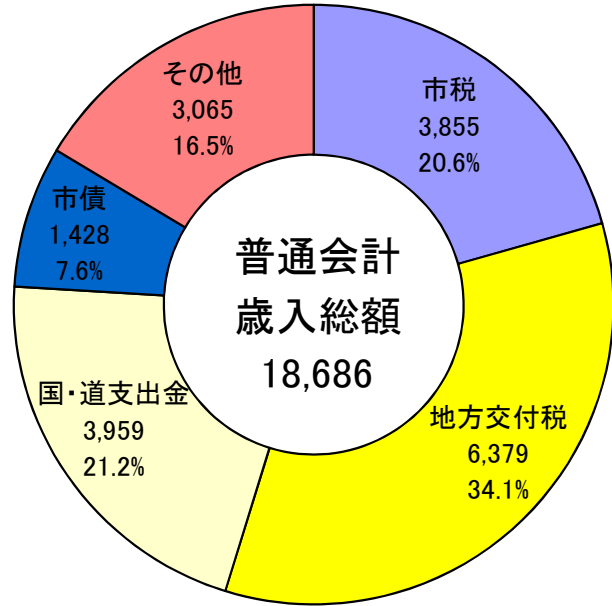
年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

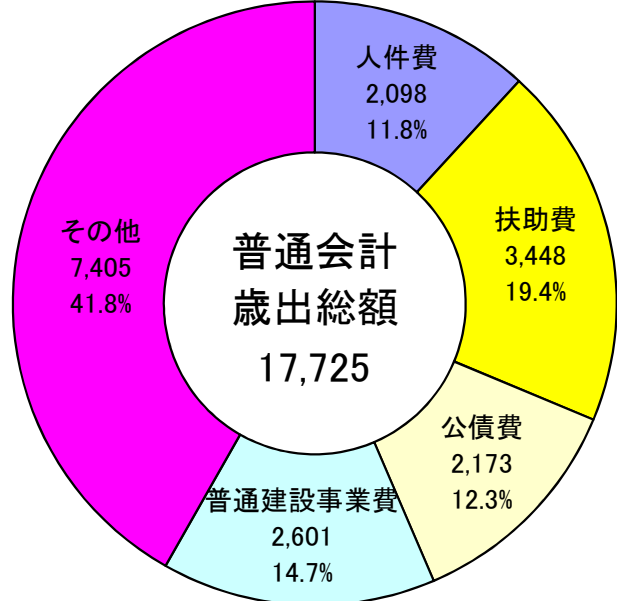


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

